

琉球大学学術リポジトリ

夏甘藍栽培の要点

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 滋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19627

に少くとも雪内丈けでも精一杯の自由を与えのんびり思うまゝの休養を与えて欲しい。
 家畜にも暑さ寒さを感じ快適の気分を味う丈けの神経の持ち合せはある。住み心地よくすれば内臓器管の活動も活発となるから自然能力を発揮するようになるのである。

夏甘藍栽培の要点

(日 越 国 言)

畜舎に金を掛ける必要はないがコンクリート床としつかりした水肥溜は欲しい。後は丸太の柱に茅の屋根でも結構である。但し一頭分の広さを九尺四方以上と云う事を忘れず。

甘藍は冷涼な気候を好むもので十二月から四月頃が最盛期で単個も五田乃至五(錢)ほどの安い個である。然し六月から十

一月頃までは品薄で、十一月には単個が二(圓)もする。個の高い時期に出荷するには、夏の高温暖期に栽培せねばならないので、甘藍の性質上不適当な時期であるが最近では、耐暑性の葉深種が出来て夏の甘藍栽培が比較的容易に行われるようになった。

一、育 苗

サクセツション、二四交配等は九月以降播種されて居るが、葉深は特殊な性質をもち、平均気温十七、八度で花をつけ十月以降は播種では全然結球せず抽苔する。葉は夏の高温暖期に対しては強いが低温には敏感な為、播種期は四月から八月頃にかけて行わねばならない、収穫期は大体播種後一〇〇日頃より始められるので、十月から十一月の収穫を目標にするには七月に播種すればよい。

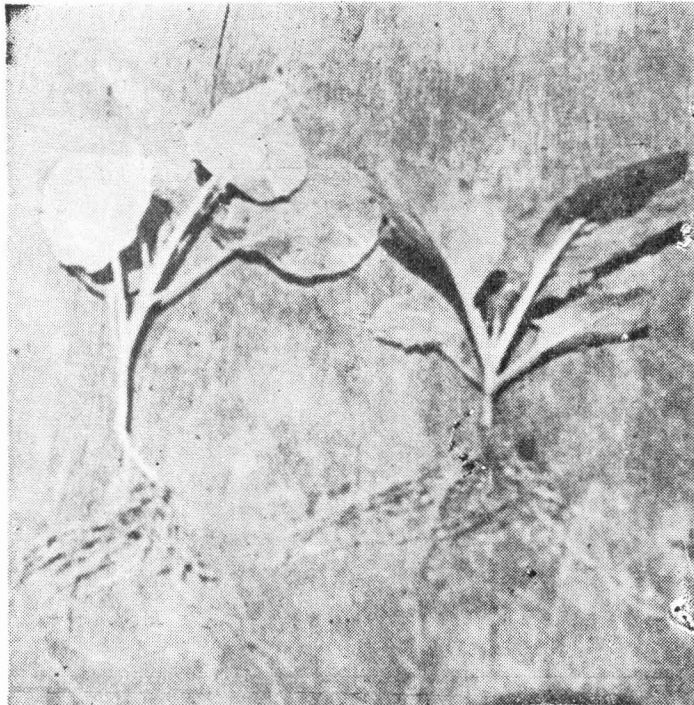
播種床は管理の便宜上住家に近い所で、畦巾四尺、通路一尺高さ一、二寸の平床をつくる。尚少量播く場合は箱播にすると便利である。箱は長さ二尺位、巾一尺二寸、深さ三寸位の平箱に造り床土をつめこむ。

播種箱、一、藪板 二、播種砂で覆土したところ。



床土は二週間程前によく腐熟した堆肥を坪当り二、三貫施し床土とよくかき混ぜて、土塊を細く砕く。こいしの多い土地では四分目位のふろいで床土の厚さ三元位ふるえばよい床土となる。床面は水平に均し、軽く鎮圧して、二寸間隔に藪板で播溝をつくり、一分位の間隔で播種する。反当播種量は大体五勺位にして播種床一坪を要する。

播種が終れば種子が見えない程度に覆土をするが、播種溝の側の土を指先で静かに種子の上にかぶせることもよい。又砂をふりまいてもよい。覆土した後は葉をしてその上より出来得る丈細目の如設で静かに灌水する。



一回移植苗(左)葉納、節間が細長い不良苗(右)良苗

播種後四、五日で発芽するが、発芽が始まれば敷薬をとり除くそれからは床面が乾燥しやすいから、乾燥して床面が白くならぬように注意する。

発芽が揃えば密生した密生、発芽の遅れた苗はぬきとり三、四分の間隔にする。

播種後十五、六日もすると本葉一、二枚も生ずるので、移植を行う。従来移植は密生をよくとるか、収獲を早めると言われて居つたが、甘藍の増収よりすれば、無移植のものがよい。移植の巨苗は定植の際、植痛みをさげるためであり、移植することによつて根が株元に密生し、定植時の断根が少なくなるから、自然植痛みも軽いわけである。

移植回数を多くすると、根が早く分岐して老衰し本畑で根が広く深く分布することが出来ないため発育が遅れ、かえつて害になる。移植は曇天で、無風状態の日によいが、この季節では、条件の良い日は悪れ難いので、日中の日光をさげ、夕刻に移植するがよい。苗のぬきとりは、一、二時間前に灌水して行く。この時は無理して土をつける必要はない。

堀り取つた苗はすぐ移植床に運び五寸×五寸位の間隔に密生か竹で孔を開けて植える。植付けの深さは葉と根元の中開まで定める。移植の際は苗を充分選択し、良い苗を移植する。

移植が終われば葉面灌水はさけて、株間に充分灌水する。移植二、三日は床上二、三尺の所にコモをかけ日中の日光から保護し、灌水は朝夕二回行う。苗床が乾燥すると、苗がいちぢるので乾燥させぬように心がけねばならない。

苗床の肥料分が不足すると葉色が淡く、発育が著しく遅れ定植後の結果もよくないので、灌水の際備前を少量水に溶して追肥を行う。

二、定植

移植後十五位すると本葉五、六枚も展開するので定植の適期となる。本畑は前もつて準備しておく、施肥例、堆肥四〇〇貫、硫酸十五、過石二十四貫、塩化加里十貫を施す。栽植密度二尺×二尺。苗取りは一、二時間前に充分灌水しておいて、指

を土の中に突込み充分土をつけて握り取る。堀り取つた苗は土がくずれない程度に軽くにぎり、苗箱で本畑に運び速かに植え付ける。

生育、結球期が高温乾燥期にあるので、苗の取扱は丁寧に行い、植え付けた後は充分灌水し活着を早くする。又特にこの時期には苗の良否が収量、品質を左右するので発育の遅れた貧弱な苗や特別に大形のもの、葉柄や節間の細長いものを除き中唐の苗を定植する。尚定植後、害虫のため、或は定植後枯死することがあるので、穴株とならぬように、予備苗を畦間へ植えておき、穴株が出る時に植替える。定植後は出来るだけ早く追肥中耕を終え、外葉を充分繁茂せしめて良球を得るようにする。

三、害虫

高温乾燥のため、病虫害の発生が多く管理が悪いと苗は全滅することがあるので、注意深い管理が必要である。

芯喰虫、甘藍には最も恐るべき害虫で、殊に夏期の高温乾燥期に多く発生するから油断は出来ない。これの防除にはDDT BHCを撒布するか、砒酸鉛を撒布する。

砒酸鉛は一斗に対して、ひ酸鉛十五匁、カゼイン石灰五匁を加用する。

豚コレラを防ぐ方法 (三)

アブラムシ、苗床でこの虫がつくと後の発育に影響するので、苗床管理の際に注意せねばならない。甘藍のアブラムシはロウ物質を分泌するので展着剤の量を増し十倍液の硫酸ニコチンを撒布する。硫酸ニコチン十八ccに石鹼二〇匁を水一斗に解す。その他後述の害虫等が発生する。夜盗虫の被害は大きなもので発育を見れば速かに砒酸鉛を撒布する。又捕殺に努めねばならない。

おわりに

生育期、結球期が高温乾燥期で甘藍には不適当な時期であるが葉深は耐暑性があり夏の甘藍栽培が出来たようになったことは前にも述べた。甘藍は苗の良否によつて収量、品質に大きく影響するが、特に夏作の場合、良球をとるには、移植時に苗の選択淘汰を行い、又苗床の栽植密度を広くして伸びのよい充実した苗をつくる。苗の取扱も丁寧に行い植痛みを防ぎ活着をよくする。定植後も管理を怠らず外葉を充分展開せしめて株に力を与えて、耐暑性を發揮させる。

乾燥期に栽培するので、灌水の必要上水利の良い場所に栽培せねばならない。尚害虫の発生が多いので薬剤撒布を怠つてはならない。(宮城 滋)

前号に於ては既に沖縄の各地に発生したコレラの伝染経路を列挙したがその狙いは其等の経路(運賃)を如何して遮断(切断)して此を制圧するかという方法を見出す為であつた。順序としてコレラの症状の概略を説明し次に其の制圧論を言及し本稿を締め度いと思ふ。

(一)潜伏期(体内に侵入したコレラ病菌が一定の発育をして発病する迄の期間)は摂取病菌の多寡、毒力、豚個体の抵抗力、季節等によつて一様でないが毒力の強いもの或は多量の病菌の場合には短く、寒冷期より暑い季節は短いようであるが最短

二日通常六—一〇日、稀に二週間以上三週間間に及ぶものが発見されるといわれる。此によつて見る場合他より豚を購入する際は最低二週間は隔離して観察し直に現在飼育中のものと接触せしめないよう別棟に飼育せねばならない。これはたとえ予防注射された豚でも是非実行するように奨めた。

(二)症状 Ⅱ 暴急性型、急性型、慢性型の三つに区分されるが先づ油断で最も多い急性型について申述べると、前述の潜伏期を経て次の様な症状が現われる。先づ体温が四一度乃至四二度に上昇稽留する(一度以内の熱発の高低を云つては)熱の持